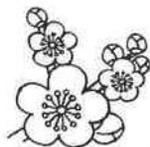




ゆりかご 園だより

2026.2.2



雪の多い中、日々子どもたちを送迎して頂きありがとうございます。先月下旬の大雪はここ数年見られないような量の降雪がありましたね。1月26日の朝は特に大変だったのではないのでしょうか。車通勤の職員たちも大渋滞に巻き込まれ、何時間もかけて出勤してきていました。徒歩通勤の私も北大の農場の真ん中を膝上まである雪の中を漕ぎ続け、ようやく保育園にたどりつきました。保護者の皆さまも本当におつかれさまでした。

さて1月22日と27日のそり遠足では、お弁当の準備をして頂きありがとうございました。残念ながら、はとぐみとあひるぐみの日は大雪によるバスの関係で子どもたちが現地に行くことが叶いませんでしたが、それでも保育園でお弁当を食べることができてとても嬉しそうでした。

私は22日のそうぐみとりすぐみの日に農試公園に同行させてもらい、春のエルムの杜公園、夏の円山動物園、秋のモエレ沼公園に続き、4回目のお弁当をそうぐみの子たちと一緒に食べることができました。春の遠足でエルムの杜公園に行った際には、お弁当を食べ終わってお弁当箱と敷物をリュックにしまうだけで20分近く費やしていた子どもたちが、お弁当を出すのも食べるのも片付けるのも、誰に言われるでもなくみんなができるようになっていたことに成長を感じるとともに、少し寂しさを覚えたのも正直なところです。「また一緒に食べたいね」というと「もう保育園のお弁当はこれで終わりだよ」とクールに返ってくる答えもまた私の寂しさを増幅します。

その後、お弁当の片付けが終わり、帰園まで30分を残したところで、もうひと滑りするか、近くを散歩するかが決まらず、どんどん時間だけが過ぎていく状態になりました。この1年、何度もこのパターンで自分たちのあそび時間を減らしてきた子どもたちでしたが、またしても同じパターンにはまっています。ああ今回も時間切れかなあと思っていたところ、残り15分でようやく話しがまとまり、最後の時間は木を揺らして雪を落とすあそびを楽しむことができました。子どもたち自身で「ああこのパターンは・・・」と気が付いたのかどうかは分かりませんが、このままではあそべなくなると思って踏みとどまったことは事実です。これも子どもたちの成長の一つなのだと思います。

今回はそうぐみの子どもの姿について書きましたが、そうぐみに限らず、どのクラスの子たちも同じように成長を積み重ねています。私自身は子どもたちと関わる時間は限られた時間でしかありませんが、子どもたちの素敵な姿を見つけたときは登降園時の立ち話でお伝えしたいと思っています。本年度も残り2ヶ月となりますがどうぞ宜しくお願いします。○*

